

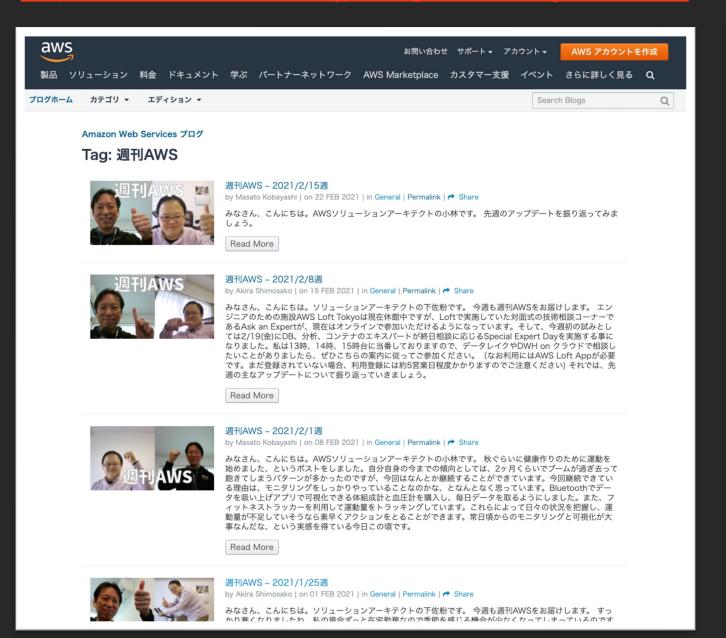




アップデートはどこで確認できますか?



https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/tag/週刊aws/ https://aws.amazon.com/jp/new/









製品 ソリューション 料金 ドキュメント 学ぶ パートナーネットワーク AWS Marketplace カスタマーサポート イベント さらに詳しく見る (

Amazon Linux 2023 のご紹介

投稿日: Mar 15, 2023

本日、Amazon Linux 2023 (AL2023) の一般提供についてお知らせします。これは、クラウドアプリケーションの開発と実行のために、安全で安定した高性能な環境を提供するように設計された、AWS 向けの新しい Linux ベースのオペレーティングシステムです。 AL2023 は、さまざまな AWS サービスや開発ツールとのシームレスな統合を実現し、Amazon Elastic Compute Cloud (EC2) の Graviton ベースのインスタンスと AWS サポートのパフォーマンスを最適化します。追加のライセンス料は発生しません。AL2023 以降、2 年ごとに新しい Amazon Linux のメジャーリリースが提供される予定です。このケイデンスにより、より予測可能なリリースサイクルと最長 5 年間のサポートが提供され、アップグレードの計画が容易になります。

AL2023 は、Amazon Linux 2 (AL2) に対していくつかの改善を施しています。例えば、AL2023 は、デフォルトでセキュリティに対応するアプローチを採用しています。セキュリティポリシーの事前設定、SELinux のパーミッシブモードと IMDSv2 のデフォルト有効化、カーネルライブパッチを利用できるようにするなど、セキュリティ体制の向上に役立ちます。バージョン管理されたリポジトリによる確定的なアップグレードでは、Amazon Linux パッケージリポジトリの特定のバージョンにロックして、更新をいつどのように適用するかを制御できるようにします。この機能により、環境全体でパッケージバージョンと更新の一貫性を確保できるため、運用上のベストプラクティスをより効率的に遵守できます。詳細な比較については、Amazon Linux 2 と Amazon Linux 2023 の比較を参照してください。

Amazon Linux 2023 は通常、AWS GovCloud (米国) リージョンと中国リージョンを含むすべての AWS リージョンでご利用いただけます。 Amazon Linux 2023 に関する詳細については、AWS のドキュメントを参照してください。

参考ページ

「Amazon Linux 2023 のご紹介」 https://aws.amazon.com/jp/abo ut-aws/whatsnew/2023/03/amazon-linux-2023/ 製品 ソリューション 料金 ドキュメント 学ぶ パートナーネットワーク AWS Marketplace カスタマーサポート イベント さらに詳しく見る (

AWS Data Exchange for Amazon S3 が一般公開されました

投稿日: Mar 14, 2023

AWS Data Exchange for Amazon S3 が一般公開されました。これにより、お客様はサードパーティのデータファイルを簡単に検索、サブスクライブ、使用できるようになり、インサイトを得るまでの時間の短縮、ストレージコストの最適化、データライセンス管理の簡素化などが実現します。この機能は、データコピーを作成または管理することなく、データプロバイダーの Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットから直接サードパーティのデータファイルを使用したいサブスクライバーや、Amazon S3 バケットでホストされているデータへのインプレースアクセスを提供したいデータプロバイダーを対象としています。

サブスクライバーは、データプロバイダーが維持しているものと同じ S3 オブジェクトにアクセスします。そのため、エンジニアリングや 運用上の追加作業を行うことなく、利用可能な最新のデータを使用できます。データプロバイダーは、既存の S3 バケットの上に AWS Data Exchange for Amazon S3 を簡単にセットアップして、S3 バケット全体または特定のプレフィックスやオブジェクトへの直接アクセスを共有できます。これらの S3 オブジェクトは、AWS Key Management Service に保存されている顧客管理キーまたは Amazon S3 管理キーを使用してサーバー側で暗号化できます。設定後、サブスクリプション、使用権限、請求、支払いについては、AWS Data Exchange で自動的に管理されます。

AWS Data Exchange for Amazon S3 は、現在、AWS Data Exchange が利用可能なすべての AWS リージョンでご利用いただけます。

開始するには、AWS Data Exchange にアクセスして、AWS Data Exchange for Amazon S3 のデータ製品を見つけてください。 AWS Data Exchange for Amazon S3 製品ページにアクセスして、お客様がコピーを作成または管理することなく、数回クリックするだけでサードパーティのデータファイルを検索、サブスクライブ、使用できる方法について詳しく学んでください。

参考ページ

「AWS Data Exchange for Amazon S3 が一般公開されました」

https://aws.amazon.com/jp/aboutaws/whats-new/2023/03/aws-dataexchange-amazon-s3/ 製品 ソリューション 料金 ドキュメント 学ぶ パートナーネットワーク AWS Marketplace カスタマーサポート イベント さらに詳しく見る C

AWS Application Composer の一般提供を開始

投稿日: Mar 7, 2023

AWS Application Composer は、サーバーレスアプリケーションのアーキテクチャ設計、設定、構築を簡素化、加速します。AWS Application Composer のブラウザベースのビジュアルキャンバスを使用すれば、AWS サービスをドラッグアンドドロップしてアプリケーションのアーキテクチャへ接続できます。AWS Application Composer では、各サービスの統合設定が完了した、デプロイの準備ができている Infrastructure as Code (IaC) の定義が維持されるため、ユーザーは構築に集中できます。

AWS Application Composer を使用すると、新しいアーキテクチャをゼロから開始したり、既存の AWS CloudFormation または AWS サーバーレスアプリケーションモデル (SAM) テンプレートをインポートしたりできます。AWS のサービスを追加して接続する と、AWS Application Composer がすぐにデプロイできるプロジェクトを生成し、アプリケーションアーキテクチャを視覚的に表現して IaC と同期させます。この一般公開リリースでは、Amazon Simple Queue Service (SQS) との直接統合など、Amazon API Gateway のリソースサポートが改善され、ユーザーインターフェイスの改善、インタラクションの改善、10 言語でのローカリゼーションが追加されています。

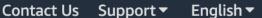
AWS Application Composer は現在、米国東部 (オハイオ)、米国東部 (バージニア北部)、米国西部 (オレゴン)、アジアパシフィック (シンガポール)、アジアパシフィック (シドニー)、アジアパシフィック (東京)、欧州 (フランクフルト)、欧州 (アイルランド)、欧州 (ストックホルム) の AWS リージョンで追加料金なしで一般提供されています。

使用を開始するには、AWS Application Composer の製品ページをご覧ください。詳細については、ローンチに関するブログ投稿をご覧ください。

参考ページ

「AWS Application Composer の一般提供を開始」

https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2023/03/aws-application-composer-generally-available/



English ▼ My Account ▼

Sign In

Create an AWS Account

Solutions Pricing Documentation Learn Partner Network AWS Marketplace Customer Enablement

Events **Explore More** Q

Amazon Guard Duty RDS Protection for Amazon Aurora is now generally available

Posted On: Mar 16, 2023

Amazon GuardDuty broadens threat detection coverage to help you protect your data residing in Amazon Aurora databases. GuardDuty RDS Protection is designed to profile and monitor access activity to Aurora databases in your AWS account without impacting database performance. Using tailored machine learning models and integrated threat intelligence, GuardDuty can detect potential threats such as high severity brute force attacks, suspicious logins, and access by known threat actors.

Current GuardDuty users, including those in the public preview, can activate RDS protection with a single step in the GuardDuty console and, leveraging AWS Organizations, across all accounts in an organization. If you're new to GuardDuty, you will have RDS Protection turned on by default. All GuardDuty users can try RDS Protection at no cost with a 30-day free trial. For a full list of Regions where RDS Protection is available, visit Region-specific feature availability.

Amazon GuardDuty is a threat detection service that continuously monitors for malicious behavior to help protect your AWS resources, including your AWS accounts, access keys, EC2 instances, EKS clusters, data stored in S3, and now Aurora databases. Aurora is a fully managed MySQL and PostgreSQL-compatible relational database built for the cloud as part of the Amazon Relational Database Services (RDS).

To get started:

- Try RDS Protection at no cost for 30 days on the AWS Free Tier
- Refer to the GuardDuty RDS Protection documentation to learn about the new finding types available

参考ページ

「Amazon GuardDuty RDS Protection for Amazon Aurora is now generally available

https://aws.amazon.com/jp/aboutaws/whats-new/2023/03/amazonquardduty-rds-protection-auroragenerally-available/

第二十九回「アップデート紹介 とちょっぴり Dive Deep すす AWS の時間」

2023年4月27日(木)16:30 -17:30 オンライン開催(ライブ)



4/27 (木) 16:00~17:30

お申し込みページはこちら

https://pages.awscloud.com/choppiri-divedeep-seminar-series-reg.html





Thank you!

